



3D教育プログラムの導入経緯

7年前、国語の先生方の会合があり、そこでKA教育の菊地さんに会いました。菊地さんの考え方に共感しまして、私が学年主任だったときにひとつの学年で取り入れました。担任の先生の理解が非常にありまして、子供たちに積極的に働きかけていったところ、一年間で非常に成果があがったように思います。ところが、学年主任が変わりますと考えると、結局6学年ある中で、全体としてつながっていないような状態でスタートしました。学年主任レベルでの温度差があつて、実際6学年全体で行なう

とこういう良い成果があるというのを身をもって感じることはできませんでしたが、その後、生活指導部長になりました。生活指導の中でこういうものを生かせるのではないかとアピールを訴え続けました。そしてようやく5年目にして6学年全体で導入することになりました。

導入にあたり、教員側の反応は？

子供の前に教員側に理解を得させることが必要でした。そのためレクチャーを菊地さんをお願いして実践いただきました。子供たちは発言力や発表力、コミュニケーション能力について、苦手な風潮がありま

生徒はエゴグラム診断には興味があるようです。やはり自分を知るという点で、興味を持ちやすいのでしょう。保護者の方についても、三者面談の場などで活用しています。が、やはり説得力があるのか、反応は非常によいです。

改善していく、これが重要です。その意味で、まず自分を知ることができてきているのは非常に大事なことだと思います。

エゴグラム診断

先生にこのエゴグラムをやらせたほうがいいんじゃないかなと思います(笑)。NPが高いいんだけどFCがどうもっていう先生もいますし、ACが高くて鬱屈したような仕事の中で疲れ果てたような先生もいますので、私かもしませんが(笑)。それは冗談ですが、いずれにしても先生方の研修、まずはそこからかなと思います。

グループ学習の魅力

本校のグループ学習ではクラスによってやり方が異なりますが、あるクラスにおいてはグループ分けを年4回くらいの席替えと共に変える

こちらの取り組み次第で生徒は大きなコミュニケーション能力を身に付ける



インタビュー 教務部長 石井公一 先生

ですが、運用においてはまず、担任がクラス運営の中でどういうふうにかこれを使っていけるかということを確認にし、課題を見つけて、この子には、あの子にはという個々の対応をしっかりと把握できる担任であってほしいと思います。そしてそれを全体で統括できる学年主任であってほしいという思いをこめて、長い道のりですが、「急がば回れ」で3D教育プログラムを理解しながら皆さんに伝えていきたいと考えております。

最近の生徒はどんな感じですか？

発言力、発表力については、まだまだつたない生徒が多いと感じます。しかし、意見を伝えるという



のは人間としての基本です。そのため、本校では1分間スピーチや映画を通しての勉強など、いろいろな取り組みを行なっています。グループ学習なども含め、様々な動機付けを多角的に取り組んでいければと思います。

また、「好き」「嫌い」だけで判断する価値観を変えていかねばならないと考えています。そのためには担任の先生の取り組みの熱意ももちろん大事ですが、学校、家庭、子供の三位一体の取り組みが重要になるでしょう。生徒一人ひとりの育成はすぐに出来るほど単純なものではなく、特効薬のようなものはないと思います。だからこそ、時間がかかってもゆっくりと取り組み、中学1年から高校3年までの6カ年中で系統づけたものができればいいなと思います。

3D教育プログラム導入による効果

効果はやはり、生徒が活発になってきたというところです。コミュニケーション学習の題材が会話の中に出てくることとおおくなってきました。また、エゴグラム診断を通して、自分の性格の長所・短所が自分でつかめるようになってきたため、それを人前で言うようになってきたと思います。自分の長所や短所をまず知って、長所は伸ばし、短所は

今後の展望

今後については、学校全体で取り組めるかどうかといったところが大きいと思います。これからも、積極的に取り組んでいきます。

ようにしています。特定の人だけでなく、グループ分けによりいろいろな人と話せるようになります。それによって、自分の価値観だけではなく、他人の価値観にも触れ、学ぶことができるからです。そうする中、生徒は周りに刺激を受けながら考えるようになってきています。

「急がば回れ」ではありませんが、生徒の変化は一朝一夕には現れませんし、かといって何もしないでいても変わりません。このコミュニケーション学習は時間はかかりますが、しかし必ず生徒の中に変化が現れます。こちらの取り組み次第で生徒は大きなコミュニケーション能力を身に付けていきます。

グループ学習の難しい点・改善方法

テーマによってのみでなく、担任教師の取り組みの意欲の違いによって、盛り上がるかどうかが変わってきます。あとはグループの中に核になる生徒がいるかないか、または核を作り上げられるかどうかも大切です。クラスを指導する主任の力も求められるところです。これらをよりよく改善していくためには担任間の切磋琢磨が必要で、そのためには綿密に連携をとることが求められるところだと思います。しかし、実際には学校行事などもあり、時間がなかなか取れないのが現実ですね。

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・他人の価値観に触れ、刺激を受けながら考える生徒が増えてきた
- ・生徒が活発になってきた
- ・自分の長所や短所を知り、人前でそれを言えるようになった